

第三十六回宮島全国短歌大会
選外佳作

(一三三)

山口

市岡

恵子

弥山へと吾は子を追い子は孫を追いかけて登る新緑の中

(一三五)

山口

藤田

淳子

安倍さんも大きなマスクしたからう妻の手作り・色付き・縞々

(一四〇)

広島

岩本

幸久

再起動などといかない人生の充電残り四分の一

(一四五)

山口

宮崎

稔子

指揮棒はしづかに置かれカデンツアのなほ華やかなヘブンリーブルー

(一八二)

広島

堀内

孝子

初任給受くる思いに開きたり定額給付金属きし夕べ

(一八四)

広島

若林

美知恵

その花より生れ来し蝶か月草の陰より出でて月草に入る

(一八七)

広島

富田

清人

絆をも斬り捨て来たるわれにして妻と老い猫のみの残れる

(一九〇)

山口

福森

トミヨ

目を閉じて手術待つ間の部屋の中シンセサイザー身に染み渡る

(一九五)

広島

野島

桂子

一本だけ捨てるか思案の十年目守り神かも亡夫の雨傘

(一九七)

大分

加藤

貞子

「ひさしぶりやつと会へたね」歌会にてそつと近よるマスクとマスク

(二〇九)

山口

幸田

堯子

顕微鏡、望遠鏡のい出きたり四人子巢立ちし三階の部屋

(二一〇)

広島

川西

美奈子

針金がもつれたような亡夫の字の残る手帖に懐かしさ覚ゆ

(二一六)

広島

中村

武

住む人の絶えたる故郷に独り聞く普請おもわす啄木鳥の音

(二二一八)

山口 前田 勝子

ブランコにシロツメクサのレイ揺れるだーれもないコロナ禍公園

(二二二八)

山口 倉谷 節子

玄関の脇にことしも吹く青葉 母は笑ってしあわせの木と言う

(二三三八)

広島 古谷 明子

良き日なれ今日が 一番願ひ込め朝の日課のコーヒー淹れる

(二二五〇)

栃木 池上 吟

来世には遅しき性^{さが}享受してあやつりたかりし三菱パジエロ

(二二九二)

広島 小野 系子

カラーコーン置かるる昭和のアパートに電気メーターの数字遺れり

(二二九八)

広島 縄田 妙子

東雲橋」とふ水管橋の名残あり ひめぢよをん咲く国道わきに

(三〇三三)

岡山 岡田 清

この海に幾度祈り願ひしか弾圧の世を五島に偲ぶ

(三二〇)

広島

木下きのした

陽子ようこ

蝉の声、曇る眼鏡、保つ距離 マスク越しの会話かみ合わぬなり

(三二四)

広島

平井ひらい

喜代きよ

後悔がよみがえりきて眠りつく迄の間のわれのストレス

(三三六)

滋賀

船岡ふなおか

房公ふさひろ

二の丸に茂る被爆樹 ユーカりは七十五年目の夏を迎へり

(三五二)

広島

上田うえだ

千津子ちづこ

片耳の音が消えたとき夫の言うただいまを言ういつもの声で

(三五七)

宮崎

海老原えびはら

秀夫ひでお

言はるるまで気づかぬことの多くなり後追ひごつこのやうな日続く

(三九一)

山口

兼子かねこ

春枝はるえ

思ほへば亡き子の歳の四倍を生き来てコロナ禍 八十路を生きむ

(四八八)

広島

三澤みさわ

明美あけみ

義母植ゑし牡丹は白き花びらをほどきて咲けり義母は居ぬまま

(四九一)

広島

松本まつもと

義子よしこ

一群の白萩の花風にゆれ道ゆく人に秋をささやく

(四九二)

広島

鳥山とりやま

順子よりこ

激情の雨ためらひの雨も容れ溜池ひとつ山に黙もだせる

(五七七)

山口

染川そめかわ

雅子まさこ

練塀の家並に空家目立ちおり過疎の島に海鳥の啼く